

2025年3月期第2四半期 決算説明会

2024年11月7日



本資料の如何なる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社は一切責任を負うものではありません。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

2024年11月7日に開催した、2025年3月期第2四半期決算説明会の書き起こしになります。

logmi Financeにて同内容の記事を掲載しておりますので、よろしければご覧ください。

[太陽ホールディングス\(4626\)の財務情報ならログミーFinance【QAあり】太陽HD、エレキ事業の業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正 - ログミーファイナンス](#)

2025年3月期 第2四半期 トピックス

エレキ事業

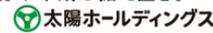
- 売上高は、累計YoYで23%増加 QoQで2%減少
 〈累計YoYに関する要因〉
 - ・ 円安に推移したことにより業績にプラスの影響
 期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、前年同期1米ドル141.3円
 - ・ PKG：メモリ向け製品を中心に需要の回復がみられ、販売数量増加
 - ・ リジッド：ディスプレイ関連部材(白色DF)の販売数量が増加
 車載関連、スマートフォン関連部材の販売数量が増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - ・ 円高に推移したことにより業績にマイナスの影響
 期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、当期第1四半期1米ドル156.5円
 - ・ リジッド：ディスプレイ関連部材(白色DF)の販売数量が減少
 - ・ PKG：第1四半期と同程度の販売数量を維持

医薬事業

- 売上高は、累計YoYで3%増加 QoQで17%減少
 〈累計YoYに関する要因〉
 - ・ リックの連結子会社化による増加
 - ・ アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の製造販売承認の承継による増加
 - ・ 他社同効薬の供給不足による需要増加、鎮咳去痰薬への需要増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - ・ 製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化による減少

全社

- 2025年3月期の業績予想修正
 エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新する修正を実施。下半期は据え置き。



【QAあり】太陽HD、エレキ事業の業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正

提供：太陽ホールディングス株式会社 2025年3月期第2四半期決算説明



太陽ホールディングス株式会社

4626・東証プライム・化学

フォロー

2024年11月7日に発表された、太陽ホールディングス株式会社2025年3月期第2四半期決算説明の内容を書き起こしでお伝えします。

スピーカー

太陽ホールディングス株式会社 代表取締役社長 佐藤英志 氏
太陽ホールディングス株式会社 常務執行役員CFO 富岡さやか 氏

提供

太陽ホールディングス株式会社

企業ホームページ

<https://www.taiyo-hd.co.jp>

当社グループの事業セグメント

当社グループの事業セグメント

エレクトロニクス事業 (エレキ事業)

プリント基板(PCB)用部材を始めとする
電子部品用化学品部材の開発・製造販売
及び仕入販売



医療・医薬品事業 (医薬事業)

医療用医薬品の製造販売・製造受託、
歯科技工物の製造販売



ICT&S事業

ICT事業、ファインケミカル事業、
エネルギー事業及び食糧事業等



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

2

佐藤英志氏（以下、佐藤）：代表取締役社長の佐藤です。よろしく申し上げます。私から2025年3月期第2四半期の決算概要についてご説明します。

当社グループの事業セグメントは、エレクトロニクス事業（エレキ事業）、医療・医薬品事業（医薬事業）、ICT&S事業の3つです。

2025年3月期 第2四半期 トピックス

2025年3月期 第2四半期 トピックス

エレキ事業

- 売上高は、累計YoYで23%増加 QoQで2%減少
〈累計YoYに関する要因〉
 - 円安に推移したことにより業績にプラスの影響
期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、前年同期1米ドル141.3円
 - PKG：メモリ向け製品を中心に需要の回復がみられ、販売数量増加
 - リジッド：ディスプレイ関連部材（白色DF）の販売数量が増加
車載関連、スマートフォン関連部材の販売数量が増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - 円高に推移したことにより業績にマイナスの影響
期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、当期第1四半期1米ドル156.5円
 - リジッド：ディスプレイ関連部材（白色DF）の販売数量が減少
 - PKG：第1四半期と同程度の販売数量を維持

医薬事業

- 売上高は、累計YoYで3%増加 QoQで17%減少
〈累計YoYに関する要因〉
 - リックの連結子会社化による増加
 - アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の製造販売承認の承継による増加
 - 他社同効薬の供給不足による需要増加、鎮咳去痰薬への需要増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - 製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化による減少

全社

- 2025年3月期の業績予想修正
エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新する修正を実施。下半期は据え置き。

第2四半期のトピックスです。こちらのスライドですべて語られていますが、エレキ事業について、売上高は前年同期比23パーセント増加、前四半期比2パーセント減少という状況です。

QoQに関する要因として、円高に推移したことにより業績にマイナス影響がありました。リジッドのディスプレイ関連部材では、白色ドライフィルムの販売数量が減少しています。

セグメント別業績（売上高・営業利益・EBITDA）

セグメント別業績（売上高・営業利益・EBITDA）

		①	②	②-①	(②-①)÷①	③	②÷③	④	②÷④
単位：百万円		2024年 3月期 上半期 実績	2025年 3月期 上半期 実績	前年 同期比	増減率	2025年 3月期 上半期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率	2025年 3月期 通期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率
エレキ 事業	売上高	34,729	42,567	7,837	23%	41,000	104%	78,700	54%
	営業利益	7,702	12,045	4,343	56%	11,000	110%	19,700	61%
	営業利益率	22%	28%			27%		25%	
	EBITDA	9,011	13,772	4,760	53%	12,700	108%	23,300	59%
	EBITDAマージン	26%	32%			31%		30%	
医薬 事業	売上高	14,609	15,078	469	3%	16,000	94%	32,500	46%
	営業利益	1,701	931	△770	△45%	1,400	67%	2,200	42%
	営業利益率	12%	6%			9%		7%	
	EBITDA	4,343	3,296	△1,046	△24%	3,900	85%	7,300	45%
	EBITDAマージン	30%	22%			24%		22%	
ICT&S 事業	売上高	1,768	2,254	485	28%	-	-	-	-
	営業利益	74	138	64	86%	-	-	-	-
	営業利益率	4%	6%			-	-	-	-
全社費用	営業損益	△389	△685	△296		-	-	-	-

5ページで説明したほうがわかりやすいかと思えます。エレキ事業の売上高は前年同期347億2,900万円から425億6,700万円に増加、営業利益は77億200万円から120億4,500万円に増加しています。

2025年3月期 第2四半期 トピックス

エレキ事業

- 売上高は、累計YoYで23%増加 QoQで2%減少
〈累計YoYに関する要因〉
 - 円安に推移したことにより業績にプラスの影響
期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、前年同期1米ドル141.3円
 - PKG：メモリ向け製品を中心に需要の回復がみられ、販売数量増加
 - リジッド：ディスプレイ関連部材(白色DF)の販売数量が増加
車載関連、スマートフォン関連部材の販売数量が増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - 円高に推移したことにより業績にマイナスの影響
期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、当期第1四半期1米ドル156.5円
 - リジッド：ディスプレイ関連部材(白色DF)の販売数量が減少
 - PKG：第1四半期と同程度の販売数量を維持

医薬事業

- 売上高は、累計YoYで3%増加 QoQで17%減少
〈累計YoYに関する要因〉
 - リックの連結子会社化による増加
 - アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の製造販売承認の承継による増加
 - 他社同効薬の供給不足による需要増加、鎮咳去痰薬への需要増加
- 〈QoQに関する要因〉
 - 製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化による減少

全社

- 2025年3月期の業績予想修正
エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新する修正を実施。下半期は据え置き。

医薬事業について、売上高は累計YoYで3パーセント増加、QoQで17パーセント減少です。

累計YoYに関する要因として、リックを連結子会社化したことによる売上高の増加や、アルツハイマー型認知症治療薬「レミニール(R)」の製造販売の承継が終わり、売上高が増加しています。

QoQに関する要因として、製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化によって減少となっています。しかし、製造受託事業は毎月および四半期ごとに追いかけて、前年同期と比較してもあまり意味はないことがわかってきたため、我々としてはなるべく年度で見たいと思っています。

全社については、2025年3月期の業績予想を修正しています。

連結業績

連結業績

	①	②	②-①	(②-①)÷①	③	②÷③	④	②÷④
単位:百万円	2024年3月期 上半期 実績	2025年3月期 上半期 実績	前年 同期比	増減率	2025年3月期 上半期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率	2025年3月期 通期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率
売上高	51,107	59,899	8,792	17%	59,400	101%	116,100	52%
営業利益	9,089	12,430	3,341	37%	11,700	106%	20,600	60%
経常利益	8,651	12,418	3,767	44%	11,400	109%	20,000	62%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,232	9,209	2,977	48%	8,000	115%	13,800	67%
円・USDレート	141.3	152.3	11.0		*1		*2	
EBITDA	13,464	16,986	3,521	26%	16,200	105%	30,100	56%
営業利益率	18%	21%			20%		18%	
EBITDA マージン	26%	28%			27%		26%	

*1 円・USDレート: 2025年3月期第1四半期 実績 156.5円、第2四半期 期初業績予想据え置き 145.0円

*2 円・USDレート: 2025年3月期第1四半期 実績 156.5円、
2025年3月期第2四半期～第4四半期 期初業績予想据え置き 145.0円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

全体の上半期実績です。売上高が前年同期比17パーセント増の598億9,900万円、営業利益が前年同期比37パーセント増の124億3,000万円、経常利益が前年同期比44パーセント増の124億1,800万円となっています。

セグメント別業績(売上高・営業利益・EBITDA)

		①	②	②-①	(②-①)÷①	③	②÷③	④	②÷④
単位:百万円		2024年 3月期 上半期 実績	2025年 3月期 上半期 実績	前年 同期比	増減率	2025年 3月期 上半期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率	2025年 3月期 通期 業績予想 (8月1日発表)	進捗率
エレキ 事業	売上高	34,729	42,567	7,837	23%	41,000	104%	78,700	54%
	営業利益	7,702	12,045	4,343	56%	11,000	110%	19,700	61%
	営業利益率	22%	28%			27%		25%	
	EBITDA	9,011	13,772	4,760	53%	12,700	108%	23,300	59%
	EBITDAマージン	26%	32%			31%		30%	
医薬 事業	売上高	14,609	15,078	469	3%	16,000	94%	32,500	46%
	営業利益	1,701	931	△770	△45%	1,400	67%	2,200	42%
	営業利益率	12%	6%			9%		7%	
	EBITDA	4,343	3,296	△1,046	△24%	3,900	85%	7,300	45%
	EBITDAマージン	30%	22%			24%		22%	
ICT&S 事業	売上高	1,768	2,254	485	28%	-	-	-	-
	営業利益	74	138	64	86%	-	-	-	-
	営業利益率	4%	6%			-	-	-	-
全社費用	営業損益	△389	△685	△296		-	-	-	-

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

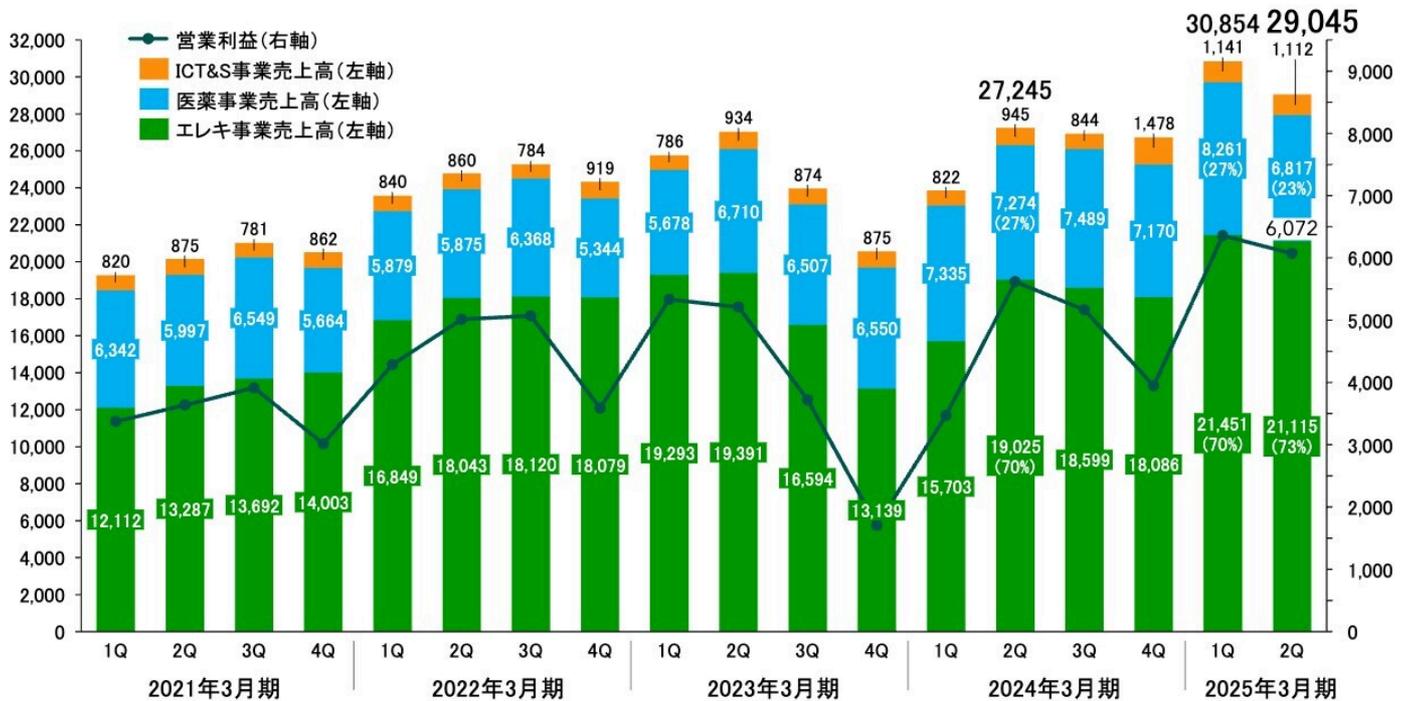
医薬事業については、売上高は前年同期比4億6,900万円増加の150億7,800万円、営業利益は前年同期17億100万円から7億7,000万円減少の9億3,100万円となっています。

ICT&S事業については、売上高が前年同期から4億8,500万円増の22億5,400万円、営業利益はこのところ利益が出るようになり順調で、前年同期から6,400万円増の1億3,800万円となっています。

四半期別推移（売上高・営業利益）

四半期別推移(売上高・営業利益)

単位: 百万円



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

四半期別の売上高についてご説明します。エレキ事業は例年、第1四半期から第2四半期で少し売上が伸びる傾向にあります。しかし、今年8月にパッケージの製造をメインに行っている日本でシステム改修があった分の前倒し出荷が第1四半期にあり、第2四半期はその分のマイナスがありました。それらを加味すると若干のプラスです。

一方で、医薬事業は四半期で大きく売上を減らしていますが、こちらは先ほどのご説明のとおり、年度ごとに見ていただきたいと思います。

BSの概況

BSの概況

BS前期比較

単位:百万円

	24/3末	24/9末	増減		24/3末	24/9末	増減
現金及び預金	58,583	53,344	△5,238	支払手形及び買掛金	8,795	9,428	632
売上債権* ¹	28,352	28,458	106	短期借入金* ³	43,588	25,018	△18,569
棚卸資産* ²	17,166	20,319	3,152	長期借入金	43,134	52,458	9,324
上記以外	5,552	2,921	△2,630	上記以外	16,835	13,852	△2,982
流動資産合計	109,655	105,044	△4,610	負債合計	112,353	100,758	△11,595
有形固定資産	68,852	68,681	△171	株主資本	89,925	97,050	7,125
無形固定資産	25,804	24,325	△1,478	その他の包括利益 累計額	10,469	9,010	△1,458
投資その他の資産	8,439	8,771	331	非支配株主持分	4	4	0
固定資産合計	103,096	101,778	△1,317	純資産合計	100,398	106,065	5,666
資産合計	212,751	206,823	△5,928	負債純資産合計	212,751	206,823	△5,928
				自己資本比率	47.2%	51.3%	4.1%

*1 売上債権:受取手形+売掛金+契約資産
*2 棚卸資産:商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品
*3 短期借入金:短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

B/Sです。現金及び預金が52億3,800万円減少しています。短期借入金と長期借入金が合計約90億円減少した分、現預金が減っている状況です。

2025年3月期 通期業績予想修正

2025年3月期 通期業績予想修正

- ✓ エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、通期業績予想を修正しました。
- ✓ 第3四半期以降の業績予想は2024年8月1日に開示した業績予想を据え置き、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新し連結業績予想を修正しました。

	単位: 百万円	2025年3月期 通期業績予想 (8月1日発表)*1		2025年3月期 通期業績予想 (11月6日発表)*2		増減比	
		金額	利益率	金額	利益率	金額	率
連結	売上高	116,100		117,700		+1,600	+1%
	営業利益	20,600	18%	21,700	18%	+1,100	+5%
	経常利益	20,000	17%	21,100	18%	+1,100	+6%
	親会社株主に帰属する当期純利益	13,800	12%	14,500	12%	+700	+5%
	EBITDA	30,100	26%	31,200	27%	+1,100	+4%
エレキ 事業	売上高	78,700		80,300		+1,600	+2%
	営業利益	19,700	25%	20,800	26%	+1,100	+6%
	EBITDA	23,300	30%	24,400	30%	+1,100	+5%
医薬 事業	売上高	32,500		32,500		-	-
	営業利益	2,200	7%	2,200	7%	-	-
	EBITDA	7,300	22%	7,300	22%	-	-

*1 円・USDレート: 2025年3月期第1四半期 実績 156.5円

2025年3月期第2四半期～第4四半期 期初業績予想据え置き 145.0円

*2 円・USDレート: 2025年3月期上半期 実績 152.3円、2025年3月期下半期 期初業績予想据え置き 145.0円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

通期業績予想の修正です。エレクトロニクス事業では当第2四半期の増加分を加え、通期業績予想を修正しています。

下半期の業績予想は変えていないため、第2四半期の増加分をそのまま足したかたちです。医薬事業は、通期で見るとそれほど売上高・営業利益に影響はないだろうと判断しています。

エレクトロニクス事業 用語説明

エレクトロニクス事業 用語説明

用語	内容
PCB (Printed Circuit Board)	プリント基板
SR (Solder Resist)	ソルダーレジスト(レジストインキ)
PKG (Package)	半導体パッケージ
DF (Dry Film)	ドライフィルム
BU (Build-up)	ビルドアップ

エレクトロニクス事業の用語説明です。表の上から4番目のドライフィルム（DF）が現在かなり主力になっている製品形態です。

エレクトロニクス事業 製品分類

エレクトロニクス事業 製品分類

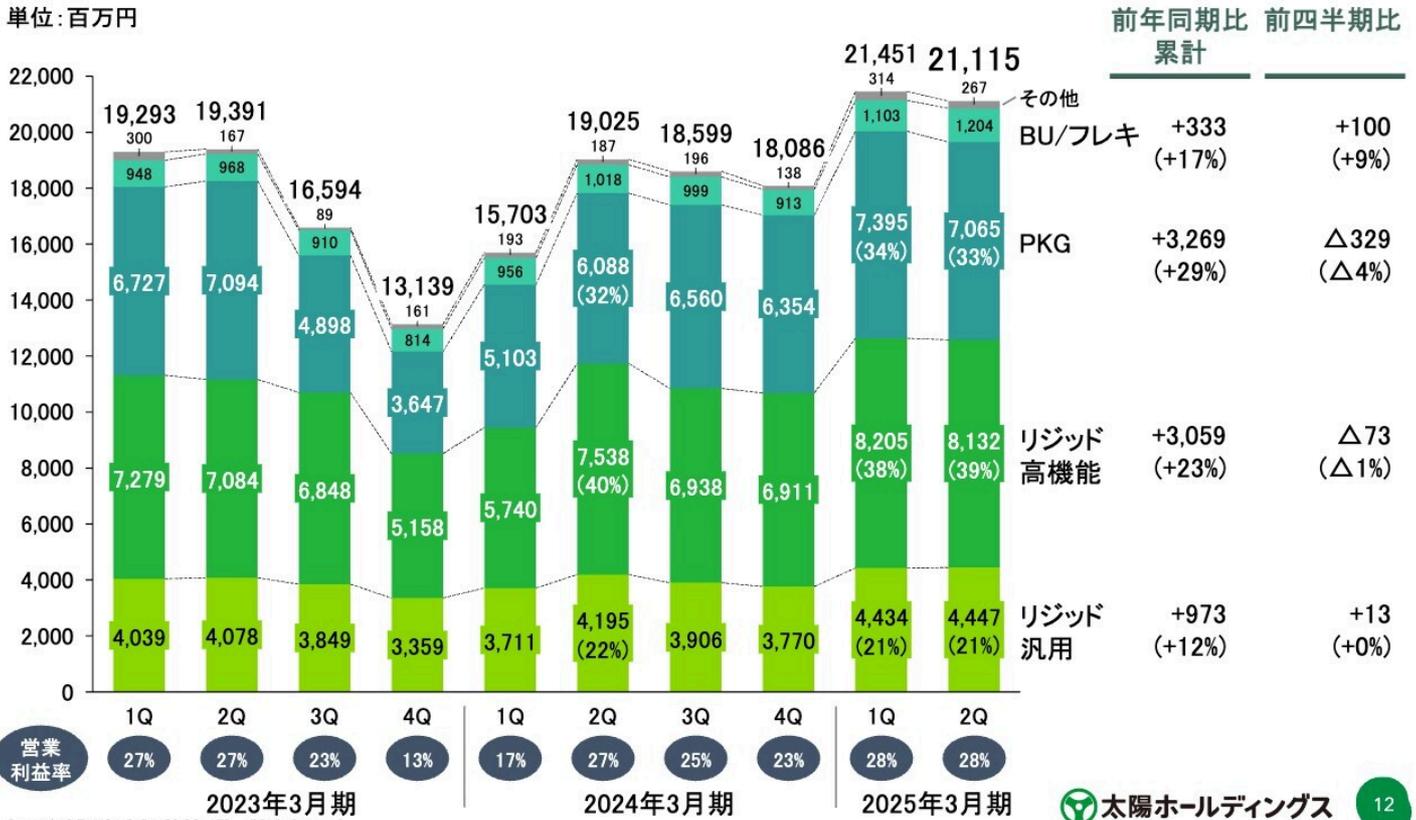
分野	分類		性状	用途
PCB用 絶縁材料	リジッド	汎用品	液状	表層保護・絶縁用SR材料 マーキング・エッチング・めっき用材料 電子機器用材料 等
		高機能品	液状／DF	
	PKG		液状／DF	
	フレキ		液状／DF	
	BU		液状／DF	
その他 関連商材	その他		液状／DF	導電性ペースト 等

エレクトロニクス事業の製品分類です。性状の項目には「液状／DF」と記載がありますが、ドライフィルム化が進んでおり、これが当社の収益を大きく押し上げている要因です。

エレクトロニクス事業 製品別売上高

エレクトロニクス事業 製品別売上高

単位: 百万円



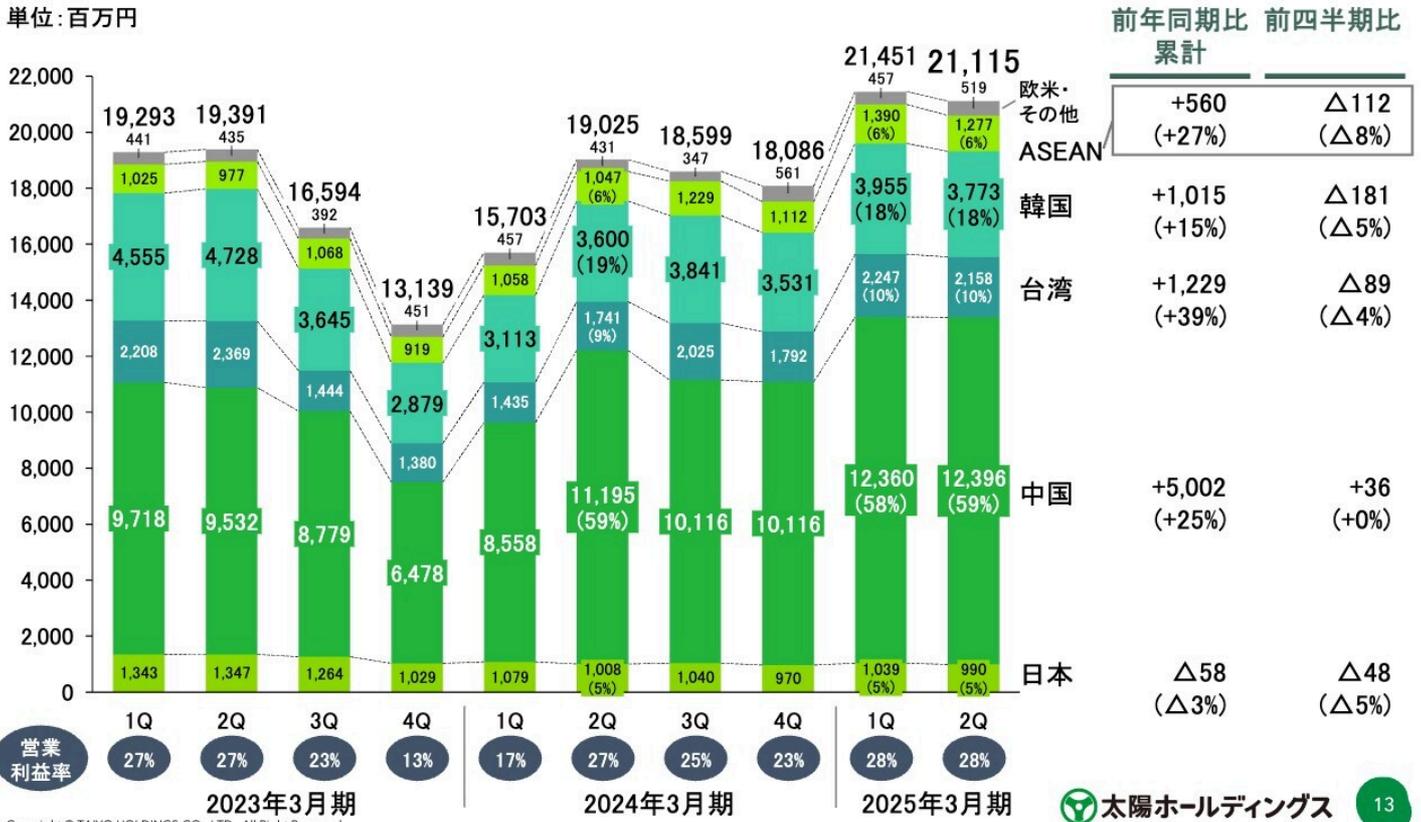
スライドのグラフは、エレクトロニクス事業の製品別売上高を示しています。第1四半期から第2四半期にかけて若干マイナスになっているのは、特にPKGです。

PKGは、日本でシステム改修があった分、少しマイナスになっています。それを加味すると、第1四半期から第2四半期でおよそ横ばい、または若干プラスという見方をしています。

エレクトロニクス事業 販売地域別売上高

エレクトロニクス事業 販売地域別売上高

単位: 百万円



スライドのグラフは、国別の売上高を示しています。韓国が、先ほどご説明したPKGの影響を最も大きく受けています。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

医療・医薬品事業 用語説明

用語	内容
長期収載品	新薬として発売された後に特許期間もしくは再審査期間が終了し、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の販売が可能となっている先発品
CDMO	医薬品製造及び医薬品製剤開発を受託する機関 (Contract Development Manufacturing Organization)
GMP	医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準 (Good Manufacturing Practice)

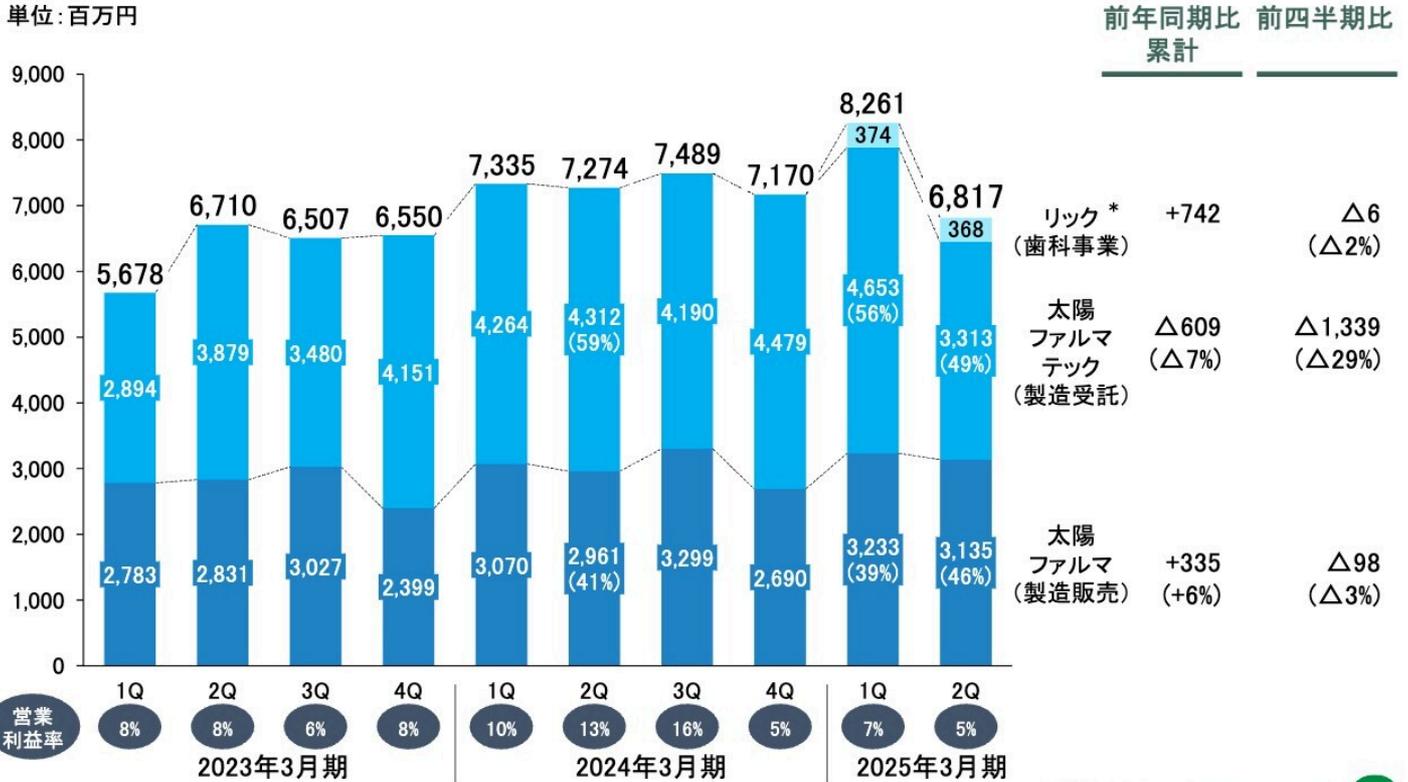
医療・医薬品事業の用語説明です。当社では「長期収載品」という言葉がよく使われています。こちらは、ジェネリック医薬品の販売が可能となっている先発品のことで、「ジェネリック」とよく混同されますが、当社は新薬として発売された後に特許が切れたものを「長期収載品」と呼んでいます。

「CDMO」は、医薬品製造及び医薬品製剤開発を受託する機関です。

医療・医薬品事業 会社別売上高

医療・医薬品事業 会社別売上高

単位：百万円



* 当第1四半期より連結子会社化
Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

各社の業績です。1番下の太陽ファルマは、30億円、32億円、31億円台と、前期第1四半期や第2四半期と比べると、売上高を若干伸ばしています。こちらは先ほどもお伝えしたとおり、アルツハイマー型認知症治療薬「レミニール(R)」を承継したことによる売上高の増加です。

一方で、太陽ファルマテックは、第1四半期の46億5,300万円から第2四半期は33億1,300万円に大きく売上を落としています。こちらは季節要因でなく、製造を委託する会社の都合により、第2四半期に出荷が間に合わなかったものです。当社は製造しているものの、出荷していない分が売上を大きく落としています。

こちらは季節要因というより、むしろ契約状況によって変わってくるものです。年間では当初の見込みと大きく変わらない、もしくは若干プラスという見方をしています。

リックという歯科事業の会社は3億6,800万円で、こちらの分が積み上がっています。残念ながら現時点では収益化に貢献していないためプラスマイナスゼロ程度で、売上高のみが乗っている状況です。

非常に簡単ではありますが、以上、第2四半期の当社の決算概要でした。

質疑応答：医薬品の出荷タイミングについて

質問者：医療・医薬品事業について確認です。お客さま都合で出荷できなかった分は、第三四半期には売上が上がり、おおむね計画通りもしくは若干プラスとなるのでしょうか？

佐藤：おっしゃるとおりです。

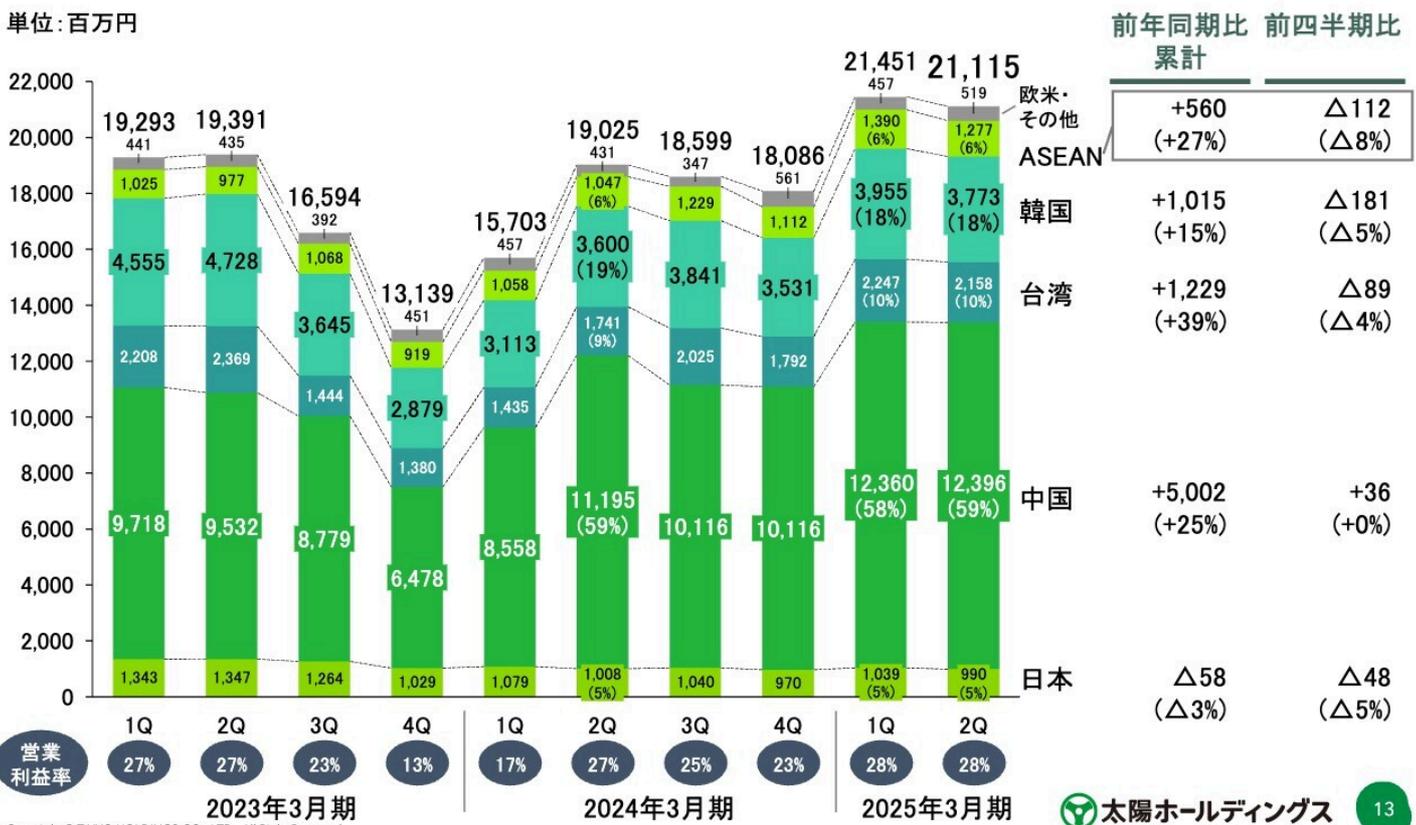
質問者：なにか変なことが起きているわけではありませんか？

佐藤：起きていません。

質疑応答：エレキ事業の業況や景況感について

エレクトロニクス事業 販売地域別売上高

単位：百万円



質問者：上振れた分だけ業績予想に乗せるのが近年の御社流であるという状況は理解しています。期初から半年経った中で、おそらく医療・医薬品事業はあまり変わらないと思いますが、エレキ事業の業況や景況感などについて、コメントをお願いします。

佐藤：エレキ事業は、上半期は非常に良かったと思っていますが、下半期まで続くかと言うと、そこまで自信が持てない状況であるご理解ください。そのため、下期の業績予想は据え置いたという状

況です。

質問者：上期が想定よりも良かった背景や理由と、それを踏まえて下期には自信が持てない理由についても教えてください。

佐藤：中国が非常に良かったのですが、なぜ好調なのかという確信が持てないというのが1点あります。最近では自動車メーカーの決算が出ていますが、多くの企業が減益の決算を発表している中、当社の中国での自動車向け販売は非常に好調です。しかし、このまま続くのかがわからず、自信が持てない状況です。

もう1点の大きな要因としては、PKGの販売も好調で、中国のパッケージ製造が順調に立ち上がってきています。しかし、少し調整が入るかどうか、状況を見ています。

質問者：すでに傾向は出ていますか？

佐藤：現時点では出ていません。

質問者：状況が読みづらいということでしょうか？

佐藤：おっしゃるとおりです。

質疑応答：エレキ事業のリスクとアップサイドのポテンシャルについて

2025年3月期 第2四半期 トピックス

エレキ事業	<ul style="list-style-type: none">● 売上高は、累計YoYで23%増加 QoQで2%減少 〈累計YoYに関する要因〉<ul style="list-style-type: none">● 円安に推移したことにより業績にプラスの影響 期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、前年同期1米ドル141.3円● PKG：メモリ向け製品を中心に需要の回復がみられ、販売数量増加● リジッド：ディスプレイ関連部材（白色DF）の販売数量が増加 車載関連、スマートフォン関連部材の販売数量が増加● 〈QoQに関する要因〉<ul style="list-style-type: none">● 円高に推移したことにより業績にマイナスの影響 期中平均為替レート：当期1米ドル152.3円、当期第1四半期1米ドル156.5円● リジッド：ディスプレイ関連部材（白色DF）の販売数量が減少● PKG：第1四半期と同程度の販売数量を維持
医薬事業	<ul style="list-style-type: none">● 売上高は、累計YoYで3%増加 QoQで17%減少 〈累計YoYに関する要因〉<ul style="list-style-type: none">● リックの連結子会社化による増加● アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール®」の製造販売承認の承継による増加● 他社同効薬の供給不足による需要増加、鎮咳去痰薬への需要増加● 〈QoQに関する要因〉<ul style="list-style-type: none">● 製造受託事業におけるプロダクトミックスの変化による減少
全社	<ul style="list-style-type: none">● 2025年3月期の業績予想修正 エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新する修正を実施。下半期は据え置き。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

 太陽ホールディングス

3

エレキ事業についても、先ほどの質問と同様に違和感があります。今後のリスク要因のシナリオはありますか？ また、アップサイドについてなにか期待できる点はありますか？ 下期および下期以降について教えてください。

佐藤： エレクトロニクスのリスク要因に関するご質問でしょうか？

質問者： リスクとアップサイドのポテンシャルという意味です。下期の見立てを従来変えていない要因については、中国の状況が見えにくいというお話がありましたが、そちら以外にもなにかありますか？ なければ、例えばスマートフォンが出るかどうかはわかりませんが、アップサイド要因があるのでしょうか？

また、アジアではベトナムなど他の地域が盛り上がってきたなど、なにか新しい話があればご紹介いただけますと幸いです。

佐藤： リスク要因とアップサイド要因の両方にかかってきますが、白色ドライフィルムが前年同期比では数量が増加しています。第3四半期も引き続き同等の水準になるか否かについては、もともと数

量をほとんど見ていないため、今の水準から変わらなければ、第3四半期以降はプラス要因にもなるという状況です。

リスク要因としては、そのプラス要因が削げることになります。Mini LEDディスプレイ用の白色ドライフィルムは、1つの大きな要素だと考えています。

また、タイやベトナムなどアジア地区のその他エリアについては、当初の見立てとそれほど変わっていないため、プラスもマイナスもないと見ています。

質問者：白色ドライフィルムは、一見すると需要先が限られていますが、第3四半期以降の予算上では見ていないということでしょうか？

佐藤：ほとんど見ていません。

質問者：わかりました。来年度以降の期待値は何かありますか？

佐藤：来年度以降も当社の白色ドライフィルムが採用されているMini LEDディスプレイ製品の売れ行きが良ければ、期待できると考えています。

質問者：アジア地区の見立ては変わらないとのことですが、要は客先をしっかりとつかんでいるため、サプライチェーン上において過剰な在庫や不足はなく、現状はヘルシーで推移しているという理解でよいのでしょうか？

佐藤：おっしゃるとおりです。

質疑応答：中長期的な事業機会について

質問者：PKG基板向けの製品について、今後のビジネス機会をどのように見込んでいますでしょうか。

佐藤：メモリとフラッシュメモリについては、引き続き順調に当社PKG製品がシェアを獲得できています。切り替わりは多くはないため、マーケットが伸びた分だけ我々の製品も伸びると見込んでいます。

質問者：汎用メモリ、あるいはローカルDRAMについても事業機会があると認識していますが、HBMの事業機会は今のところないものと捉えています。

今後ハイブリッドボンディングやパッケージの形状が変わっていった場合も、事業機会はないのでしょうか？ もしくは何か新しいアイテムがあり、事業機会として捉えることができるのでしょうか？

佐藤：我々も、再配線層向けの製品には取り組んでいるため、ソルダーレジストがなくなったとしても、そちらに移行することが1つの事業機会だと考えています。

質問者：「結果報告をお待ちください」ということでしょうか？

佐藤：そうですね。加えて、我々がBGAを含めたPKG向けのすべてのシェアを取ったとしても、それほどボリュームがないというのが現状です。それよりも、アプリケーションプロセッサやNAND型のフラッシュメモリが伸びるほうが大きいことは間違いありません。

質問者：御社のシェアが高いため、エレクトロニクス産業が拡大することが最も良いシナリオということになりますか？

佐藤：半導体まわりで言えば、半導体パッケージそのものよりも周辺を狙うほうが大きいだろうという認識です。今はコメントできませんが、そちらに注力しているという状況もあります。

質疑応答：通期の実効税率について

2025年3月期 通期業績予想修正

- ✓ エレキ事業において2024年8月1日開示の業績予想を上回る見込みとなったため、通期業績予想を修正しました。
- ✓ 第3四半期以降の業績予想は2024年8月1日に開示した業績予想を据え置き、エレキ事業の上半期業績予想を実績値に更新し連結業績予想を修正しました。

	単位: 百万円	2025年3月期 通期業績予想 (8月1日発表)*1		2025年3月期 通期業績予想 (11月6日発表)*2		増減比	
		金額	利益率	金額	利益率	金額	率
連結	売上高	116,100		117,700		+1,600	+1%
	営業利益	20,600	18%	21,700	18%	+1,100	+5%
	経常利益	20,000	17%	21,100	18%	+1,100	+6%
	親会社株主に帰属する当期純利益	13,800	12%	14,500	12%	+700	+5%
	EBITDA	30,100	26%	31,200	27%	+1,100	+4%
エレキ 事業	売上高	78,700		80,300		+1,600	+2%
	営業利益	19,700	25%	20,800	26%	+1,100	+6%
	EBITDA	23,300	30%	24,400	30%	+1,100	+5%
医薬 事業	売上高	32,500		32,500		-	-
	営業利益	2,200	7%	2,200	7%	-	-
	EBITDA	7,300	22%	7,300	22%	-	-

*1 円・USDレート: 2025年3月期第1四半期 実績 156.5円

2025年3月期第2四半期～第4四半期 期初業績予想据え置き 145.0円

*2 円・USDレート: 2025年3月期上半期 実績 152.3円、2025年3月期下半期 期初業績予想据え置き 145.0円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

質問者：法人税率は第1四半期と同様に20パーセント台半ばですが、要因はなんでしょうか？ 年間のベースの実効税率はどのくらいなのか教えてください。

富岡さやか氏（以下、富岡）：上期は中国の売上が大きかったことが影響し、25.8パーセント程度と低めでした。

「通期でどう見ますか？」というご質問でしたが、下期業績予想の数字は2023年度の28.5パーセントを前提としているため、通期では27パーセント程度になるだろうと考えています。

実効税率は年によってぶれがあり、去年は28.5パーセント程度、一去年は26.2パーセント程度だったかと思います。このように、ある程度のぶれはあるというものとご理解ください。

質疑応答：新製品で見込む市場規模について

質問者：新製品のパワー半導体向けの高放熱材料について質問です。現在の状況、およびどのくらいの規模を狙うのか、あるいは時間軸についてなど、市場におけるチャンスについて教えてください。

佐藤：リジッド高機能に分類される高熱伝導性ソルダーレジストと、BUやその他に分類される放熱材料との2点があります。

我々は放熱材料自体をすでに20年ほど前から製造していますが、残念ながらそれほど大きなマーケットになるとは見込んでいません。数億円規模になれば良しという見立てです。

質問者：どちらの材料も同様という理解でよろしいですか？

佐藤：はい、どちらの材料も合わせてということです。

富岡：ご質問の新製品は、「JPCA Show 2024」にてJPCA賞を受けたパワー半導体向け高放熱絶縁材料についてでしょうか？

質問者：はい、そうです。

富岡：そちらについては、一部売上が立ち始めていると聞いていますが、そこまで大きくありません。

Occurred on 2024-11-07, Published at 2024-11-13 15:00 ←

企業をフォローして通知を受け取る

太陽ホールディングス株式会社
4626・東証プライム・化学

フォロー

関連タグ

#決算説明会

参照リンク

 IR資料

www.taiyo-hd.co.jp



ログミーファイナンスとは

ログ掲載のご案内

利用規約

プライバシーポリシー

お問い合わせ

採用情報

運営会社



Copyright © logmi All Rights Reserved.